

**それって、恋愛じゃなく  
てDVです**

～誰もが 被害者にも 加害者  
にもならないために～

2013年11月26日 埼玉大学  
イタビロユキ

**第1章  
デートDVとは  
何か？  
恋愛の実際**

**まず**

- 恋愛しなくてもよい。
- 焦らなくてもよい
- もし恋愛したら・・・知っておいてほしい。  
そして対処してほしい。
- この問題は、いじめとか、虐待とか、セクハラなどいろいろな人間関係（暴力問題）と共通なので、恋愛に関心ない人（縁のない人）も聞いてほしい
- 質問 デートDVって何？
- DVとデートDVってどう違うの？

**有名人でもいろいろ**

- 2010年には、華原朋美さんが、自分で、「DVでした。多い時で週に2～3回は殴られました。尾骨も折ったし、殴られすぎて右耳は今もぼとんは聞こえません。（自宅マンションの）24階のベランダに足を上げられて「俺のために僕って死ぬ！」とも書われました。尾骨も完璧には治ってなくて、出産の時に折れる可能性もあるみたいです。子供も産めないアそうですね…。ケータイも20台以上へし折られましたし、浮気もされました」と話している。
- お笑いコンビ「キングコング」の桐原雄太（33才）さんがDV的だが、テレビでは東神強いね一程度
- 鬼束ちひろさん
- 玉置浩二さん
- 2013年5月、サッカーの元日本代表MF奥次介容疑者（37）が、妻で女優の佐伯日菜子（36）に対して「殺しに行く」などと電話をかけた疑いで逮捕。
- 俳優・高峰政伸とモデルの美元 夫妻
- 加藤亜依さんが妊娠、DV男性と結婚
- 俳優・伊勢谷友介氏が、過去につきあった女性たちにDV
- 宮崎あおい、高岡蒼甫から
- 「EXILE」のMAKIDAI
- 尾崎豊

### ある女子学生の事例

- 高校時代に自分(女性)の方から一目ぼれで付き合い始めた。彼は最初優しくだったが、『他の男子と話さないでほしい』から始まった。最初はそれだけ大事に思ってくれているという事でうれしく思った。しかし彼からの要求は次第にエスカレートし、『男子と一言も話さない』『他の男子と話すのは嫌だ。僕ほそういうタイプだ』『愛しているなら僕の気持ちも尊重してほしい』と言われ、それは完全には無理というので、『無理なら、別れよう』と言われたので、我慢すると言えた。彼がそれを望むなら、それに合わせようと思った。彼は心配させることがうまく、私はいろいろ彼の話を聞いて心配して頼みされた。
- それでその後は彼の前では異性と話さないようにし、周りの友達に説明し、話しかけないでほしいと頼み、メールの返信には返信を遅くするようにチェックしてあげていた。異性の友人との関係は遠くようにした。他の人との関係が薄り、二人だけの時間が増えていった。周りが『それではないの』『やり過ぎじゃない?』といわれても、彼が好きなので耳に入らなかった。
- しかし、彼から『勉強がそんなに大事なの?』といわれて、『勉強する』と言うと機嫌が悪くなるので、あまり勉強できなくなり、勉強にまで影響が及び、成績が下がった。気がつくとも結局、ほとんど彼の望むような状態になっていた。これがきっかけでようやく目が覚め、別れることができた。
- 今回の授業を受けて初めて自分がデートDV被害者だったとわかった。身体暴力だけがDVと思っていたから。

### 事例 続き

- 約3年間、以下のようなことだった。電話帳の男友達はすべて消すように指示された。彼氏以外の男の子と話してはダメ。メールは10分以内に返さないと、さらに送られてくる。ごはんやお風呂の前にもすべて報告。彼氏からの要求にはすべて応じなければならぬ。
- ケンカのとときに反論するとさらに怒るので、反論しない。予定は彼氏に主導権あり。
- この関係に少しの不満を抱きながらも、続けてきた。デートDVということを知らずにいろいろな世界にももっていましたが、多少の苦しさは恋愛にはつきものだと我慢していました。
- ずーと一緒にいることが最適なパートナーだとおもっていた。
- 相手は自分のモノなので思い通りにしてもよいとおもっていた
- すこしのDV的なことは恋愛にはつきものとおもってがまんするものとおもっていた。
- 毎日、200件以上のメールを強要された。他の女性と話すのも規制されていた。僕といるときも、彼は、彼女とメールばかりしていた。

### 2013年6月 横浜市デートDV殺人事件

- 2013年6月、横浜市で住人の大学1年白木志穂莉さん(19)が、交際相手で別の大学1年の少年(19)に顔や胸などを刺されて殺された事件。
- 加害者は「無理心中しようとして刺した」と話した。
- 被害者女性は、高校時代から少年と交際していたが、バイト先の同僚に「しつこいから(少年と)別れたい」と話していた。手の甲に無理やり名前を彫られたこともあったという。殴られて左耳が聞こえにくいか、別れるなら殺すともいわれたという情報もある。

### 事例 長崎西海デートDV (ストーカー) 殺人 ①

2011年12月16日、長崎県西海市で、男性(筒井郷太容疑者、27歳)が、交際相手の女性の母親(56)と祖母(77)を殺害した。

この加害男性は、2011年2月下旬から女性と交際をはじめ、間もなくして男性が女性宅に転がり込む形で同居を始めた。日常的に、リモコンなどを使って女性を殴ったり、室内にとどまらず外出先の路上でも暴行に及んだりしており、警察に行つたときには全身にあざが認められる状態だった。被害女性の知人にまで男性は脅迫メールを送りつけていた。

女性は何度となく別れ話を切り出したが、そのたびに男性は逆上して女性に暴力を振るっていた。

事件の前、交際相手に暴力を振るっているとして、警察から繰り返し事情聴取や警告を受け、最後の警告から1週間後に事件を起こしていた。

### 長崎西海デートDV (ストーカー) 殺人 ②

- 「メールの返信が遅い」「今すぐに帰って来い」などと怒鳴られる、物を壊される、勤務内外でも今何をしていますかなどを10～15分に1回、メールや電話で報告するよう要求される、メールを送信できない時は職場の同僚に非通知で電話し、叫び声を上げるなどの嫌がらせをする、(職場で)男性客と接客する際に携帯電話を(被告と)通話状態のまま勤務すること、電線を強要される、1カ月に20日間は暴行され、携帯電話、鉄アレイで殴られる、手錠をされ、正座させられ蹴られたこともあった、逃げたら家族や周りの人を殺すと言われていた、被告が警察に捕まってもすぐに出てくるだろうし、家族や職場の同僚が傷つけられると思うと逃げられないと思わされた、などをしていた。ある意味典型的であった。

### 2011年 神戸学院大事件

- 2011年5月17日神戸学院大で、同大学4年生の女子学生(21)が、元交際相手の男(25)に刃物で背中などを刺され、現場に駆けつけた警察官も右太ももを切られて、いずれも重傷を負った。殺人未遂容疑で現行犯逮捕された。  
 男性は女子学生の元交際相手で、この春に同大学を卒業して就職し、埼玉に移り住んだ。女子学生とは3月に別れたが、その後も「一人ではやっていけない」というメールや電話を繰り返し、復讐を迫り東京に来るよう要求していた。4月16日には車で連れ出して復讐を迫り、翌17日に同大学のトイレで首をつって自殺を図った。女子学生は4月19日に明石署にストーカー被害を相談。神戸西署が男性や家族に口頭で注意し、つきまとわないという誓約書も同月25日に取っていた。  
 5月17日に男性が来たので、女子学生が110番通報し、署員3人が北門前の警備室に到着し、「この人ストーカーです」と警官に断えたところ、女子学生の背後から伊崎容疑者がいきなり刺した男は、「大学の駐輪場で待ち伏せし、殺すつもりだった」「3月に婚約を破棄され、そのせいで仕事もやめることになった。連絡も取れなくなり、話をしたくて会いに行った。話も拒否され、警察も呼ばれて逮捕されると思ったので刺した」と自供している

### もっと緩やかなものもある

- 「どうして僕がいるのに、合コン行ったり、ほかの子たちと遊ぶの？」
- 「付き合ってるんだから、束縛して当然」
- 電話に出ないと、何回も電話(メール)する
- お守りを渡すが、その中に婚姻届を入れている
- 「もう死ぬ」ということを聞かせる
- 相手がアルバイトでためたお金を管理して、服などを買い与える
- クラブ活動の大会の会場へ、自分の試合を休んでまで迎えに来る
- 何秒ルール・・・というのがあった。メールの返信をその時間以内にしなければ怒りまくる。別の男の人と会っていないか疑う。
- 母に会いたかったが、母に会いに行くとうと怒ると思って猫に会いに実家に戻るといった。すると、「俺はネコ以下か!」と怒りまくる。
- 「男がひとりでもいるグループのところにはいかないでほしい。女の子ばかりのグループと遊ぶにしても、報告してほしい」と言う彼氏。

### 事例 男性被害

- 毎日電話とメールですぐに返事しないと怒られるので、いつも気を使っていた。10分以内に返事しないとだめ。彼女が寝るまでは安心できない生活になっていた。最初は愛されている証拠と思っていたが、次第に自分の時間が減り耐えられなくなっていく。付き合った女性を絶対的に守らなければいけないと思っていたので、メールをやめると言えなかった。
- 一緒にいなくても常に束縛されているという一種の恐怖感を覚えた。彼女が精神的に弱かったこともあり、愛情がなくなっても3年間、突き放すこともできずつらい日々を過ごした。愛情ではなく義務で付き合い続けた。
- 相手から「どうして別れないといけないの?私は好きなのに」「別れるなら死ぬ」と言われて、別れられなかった。

13

## デートDVは・・・

### 20代の女性の 5人に1人

緩やかなものを入れると3人に1人

デートDVは予想以上に  
たくさん起きています

©aware

### 実態は？

政府（内閣府）調査2007年

- 男性の53.1%、女性の44.6%が携帯電話に絡む被害を経験
- 「電話に出なかったり、メールにすぐ返信しないと怒られた」（男性45%、女性32%、全体38.8%：複数回答、以下同じ）
- 「着信・発信履歴を勝手に見られた」（全体16.7%）
- 「1日に何度も行動を報告するよう命じられた」（女性11%、男性4%、全体7.4%）

女性だけが被害者と言っているのではない！男性の被害者もいる。しかし、ジェンダーの影響あり

### 実態は？②

- 「機嫌が悪くなったり、優しくなったりして、相手にいつも気を使わされる」（女性75%、男性42%、全体33.7%）、
- 「行動を制限される」（21.7%）
- 「言葉で嫌な思いをさせられる」（13.2%）
- 「友達との用事を無理に断らされた」「貸したお金を返してもらえない」（女性10%、男性2%）、
- 「避妊に協力してくれない」（女性12%、男性0%）、
- 「友達や家族に連絡をとることを嫌がられる」（女性7%、男性0%）、
- 「恋人が自分勝手な行動を取ると不愉快」（男性の35.4%、女性の56%）
- 「別れたら死ぬ」「家に火をつける」などの脅迫（女性5%、男性4%）

### DVの定義 デートDV定義

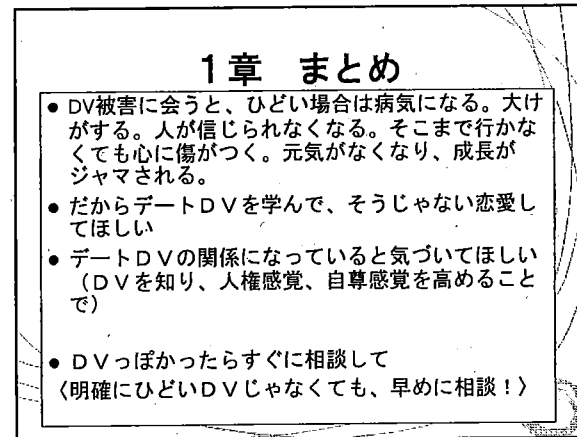
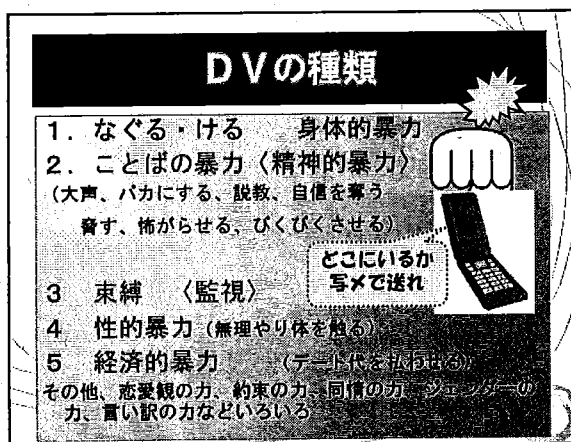
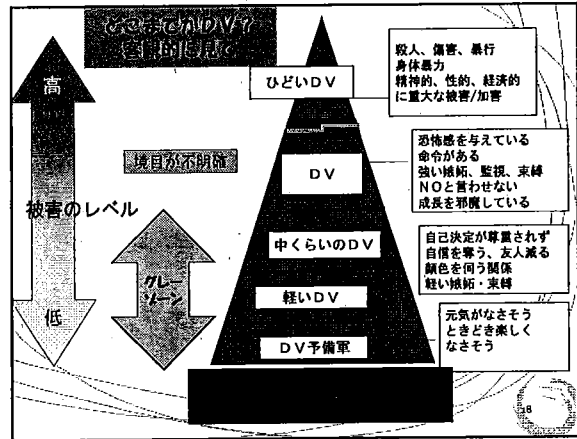
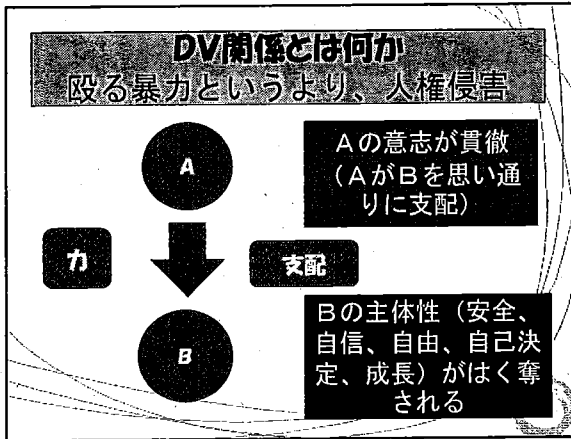
DVとは「いろいろな力を使って、相手を自分の思い通りにすること

**相手の権利を侵害する行為すべて**

恋愛関係のDVを

## デートDV

交際している2人のどちらかがいろいろな力を使い、相手を自分の思い通りにすること



## 第2章

- どうして別れられないの？
- どうしてそんなひどいことをするの？

→ 他人事じゃない。私たちの多くがそうした傾向を持っている。

ゆがんだ恋愛観を持っている。

## どうして別れられないの？①

- デートDVとはなにかを知らない
- 恋愛関係ってこんなもの（暴力や支配はたいしたことではない）
- 恋愛というものは、二人が一つになって境界線がなくなること（所有肯定 俺のもの、私のも、嫉妬束縛は当然）
- 恋愛とは、いやなことにも耐え抜くもの
- 本当に怖くて、逃げるのは無理
- 「トラウマ性つながり」「学習性無力感」
- 自分を安全にするには、がまんがいちばんいい
- 加害者のいいところや魅力的なところを愛しているから
- うまくいっていて幸せな時間のほうが多いから
- 彼（彼女）がかわいそうだから

## どうして別れられないの？②

- 自分には価値がなく、私（被害者）が悪い
- 被害を過少評価
- 別れない決断のほうが簡単
- 加害者を見捨ててはいけない
- 別れるのはよくない
- 誰も味方になってくれない
- 女らしく、我慢しないとイケない
- 自分がひとりになるのが怖い
- 彼（彼女）ほど愛してくれる人はいない

## 加害者の発想

- 恋愛とはこんなもの、愛しているからいいこと失うのが怖い 自分に自信がない
- ◆ これくらい大したことじゃない。あやまったからいい加害者の意識＝契約を守るべき、当然のことという前提（自己中心）
- 「性別役割は義務でしょ」、「付き合っているんだからこれぐらいしてくれて当然でしょ」
- 「俺が気持ちよくなるように配慮するのが恋人の役割」
- 「身の回りの世話をしてもらう権利がある」
- 「女はつくす、気配りする、女性らしくする、のが当然、そうあるべき」
- それをしなかったら怒ってもよい、説教しても、ときには教育、しつけしてもよい→暴力
- 「別れる」なんて、裏切り！！

## 加害者について②

- 加害者は間違った「DV容認の考え方」を持っている
- その内容：「・・・してもらえて当然」という特権意識を持っている
- 「自分は正しい」意識
- 「恋愛とか結婚とはこういうもの」という考え
- 自分を被害者にとらえる。
- 矛盾した主張や言動にむとんちゃく。自分に甘く人に厳しい
- 相手の感情を尊重せず、自分の言動にも目を向けず、自分の感情中心

## 加害者 具体的には例えば・・・

- 自分と相手の意見が違くと相手を否定
- 被害者が怒りを表す権利を認めない
- 相手の自由と独立を尊重しない。友人との付き合いをじゃまする。どこで誰といるかを知ろうとする。
- 加害者は被害者を理由に自分の加害行動の言い訳をする。
- 口論のとき、相手の話をさえぎる。相手の意見をよく考えずに反応する。
- 自分の暴力を事故だったかのように言う。

## 高校生のDVD (Saya-Saya監修)

### 「これからの二人 ～大切にしたいから～」

- インタビュー「デートDV体験談」  
実際の体験やその時の気持ちを語る
- 別れるって言えなかった
- 最初のころのことあったし
- なおってくれると信じて

## 3章 対等な関係

それに対して どうしていったらいいか  
○恋愛って何？

- 対等な関係性 デートDVではない関係
- その時の大事な考え方 自分を大事に
- 私たちの考え、社会全体を 非暴力に！

## ひとりが基本

「シングル単位」というのは、2人はひとつとみず、相手を自分のものと思わず、境界線を尊重し、適度な距離をとることを維持しようとするものである。

- 「ひとり=恋人がいない状態」というと、多くの人は反射的に「孤独、さびしい、ダメ、悪い、いや、つらい、一人ぼっち、わがまま、孤立、生活に張り合いなし」というイメージで否定的に捉えてしまう。
- “ひとり”（それと近い意味の“独身”“独り暮らし”）ということにも積極的な意味がある。
- 「恋人やパートナーがいない」ということは、必ずしも、「孤独で人付き合いがなく、生活に張り合いがない」ということを意味しない。
- 誰かと愛し合ったり同居したりすることを否定しているのではない。
- 隣の芝生をうらやましがるのはやめたほうが幸せになれる
- カップルというカタチがあるから必ず幸せというわけでもない。独り者、一人暮らしだから必ず不幸せということでもない。カタチだけで決まるほど、人生というものは底の浅いものではない。
- 「ひとりが基本（単位）」だと、私だけ孤独とあせる必要がなくなる。
- 選択肢がたくさんになる + 現実的 リアル

## 恋愛論

### 恋愛を美化しすぎない：ひとり=自立が基本

恋愛はたいしたものじゃない。（ひとり人でもモテる）

モテなくてもすばらしい人もある

恋人がいない時があっても当然

恋愛や結婚はしていないけれども、充実して生きている人もいる

恋愛していてもしていなくても、恋愛にのめりこまないで、自分がどう生きるのかという、その人の自立（生き方）の問題に立ち向かうことが重要

恋人だけを大事にするようなものではなく、広い社会の中で、豊かに多くの人とつながる事が大事  
他の人に見せびらかしをしない

## ひとりには積極的な意義もある

「ひとり」（それと近い意味の“独身”“独り暮らし”）ということにも積極的な意味がある。自分ひとりの大事な時間を、誰にも奪われないように、自分で立て続けにコントロールする。他人に頼らず、自分でできることを、積極的にやる。平和な手に入れたい。必要なら、強制的に後押しをしてくれる。親や世間を意味する。好きなことに離れられるという。誰かの所屬・従属物にならない。自分自身で生きていけるということ（自立）は自分の自信につながる。

「恋人やパートナーがいない」ということは、必ずしも、「孤独で人付き合いがなく、生活に張り合いがない」ということを意味しない。パートナーがいないというだけで人生の楽しみや張り合いがないわけではない。親しい人（親や友人）やペットなどに、愛を注ぐこともできるし、愛を注がれる場合もある。

## シングル単位感覚

- シングル単位感覚になれば、
- 上に立つ必要はない、
- 相手のことは相手自身が決めるのであり、自分の期待通りの行動をとらせることはできない、
- 相手に悪いところがあるとしてもそれは相手の問題で自分が解決すべき問題ではない、
- 相手が自分の思いどおりの行動をとらないのは、他人なのだから当然
- 相手のことに干渉してはいけなく、などと自分に言い聞かせて支配行動を止められる。
- 相手のことに意識を集中するのではなく、自分のことに集中して、「暴力的支配の代わりに問題の解決につながる行動」をとれる考えをもつ。



33

©aware

### 相手を尊重する関係

価値観や考えを受け入れる

お互いの違いを認める

考えを押し付けない

34

©aware

### 相手を尊重する関係

自分のことを自分で決める権利

相手の自己決定権を尊重すること

性的自己決定権も大切にしよう

### DVじゃない恋愛=対等な恋愛って？

- ① 束縛しない  
詮索・干渉・束縛はしない、してはいけない。束縛は愛ではなく、相手の自由の侵害（成長の妨害）と考える（相手を信頼する）
- ② 嫉妬の権利ない  
「嫉妬するのは当然の権利」ではないと知る。嫉妬の感情があっても、相手の自己決定を侵害してはならない
- ③ すべてを知る権利ない  
恋人の間でもプライバシーはあり、何もかもをいう必要はない。恋人のことを何もかも知るのには権利ではない

### デートDVにならないために新しい恋愛観へ

- ④ 別れに同意はいらない  
別れは片方の決意で可能  
 振られた方は、つらいが耐えるしかない  
 謝ったからええやろ、というな  
 ストーカーになっちゃだめ！
- ⑤ 境界線と距離感のある関係  
べたべたと引っついていることが、愛情深いことというわけではない。  
 自分のすべきことをそれぞれがやっている関係へ  
 自分と相手の区分をつける。二人は一体ではない。相手の主体性を否定しない

### DVじゃない恋愛=対等な恋愛って？

- ⑥ 異性・同性の友人OK、友人関係の邪魔しない  
相手の成長を喜ぼう
- ⑦ 愛する人は自分のものではない。  
自分は愛する人のものではない。  
NOと言える関係へ：意見が違っていてもいい  
呼びつけたりしない
- ⑧ 「パートナーがいないと幸せではない」とは考えない  
一人でもいい

### デートDVにならないために 新しい恋愛観へ

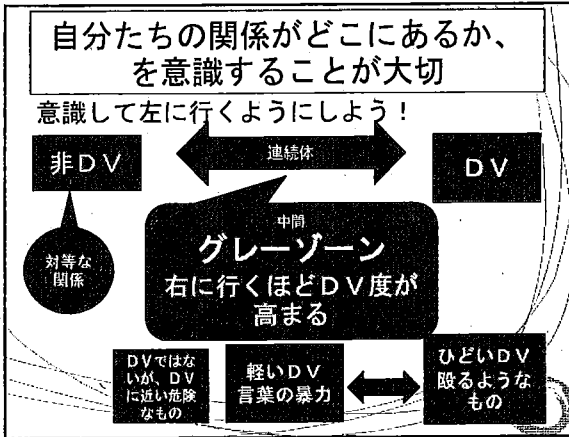
- ⑨ 性役割に囚われない  
女らしく、男らしくを押し付けない
- ⑩ 恋愛に逃げ込まない
- ⑪ 相手と自分の成長  
二人の関係以外のことをチェックしない  
恋愛(結婚・家族)以外の人間関係と活動を充実させる  
自分独自の活動(勉強、仕事、自分の友人との時間、自分ひとりの時間など成長の時間)  
相手の活動を邪魔しない

### DV一般でなくこのような具体が問題

- 相手の意見が違って否定しない
- 被害者が怒りを表す権利を認める
- 相手の自由と独立を尊重する。友人との付き合いを邪魔しない。どこで誰といるかを知ろうとしない。
- 加害者は被害者を理由に自分の行動の言い訳をしない。
- 口論のとき、相手の話をさえぎらないで聞く。自分としては賛成できない意見でもさえぎらずに、相手の意見をよく考えて反応する。
- 自分の暴力を事故だったかのように言わない。

### DV一般でなくこのような具体が問題②

- 皮肉を言う、目つきで怖がらせる、大きなため息をつく、相手を言い負かす、見下すなど、支配的な態度をやめる。
- 支配的な態度に戻った時、相手から指摘されると素直に聞く。
- 要求がましくならない。
- 家事育児の責任を大幅に請け負う。
- 女性の家事労働を軽く見て召使のように扱わない。
- 被害者が個人名義の資産を持つことを含め、お金について公平になる。
- 脅迫や怖いと感じる行動をとらない。
- 自立するのを邪魔せず、応援する。
- 意見が対立しても自分が折れる。
- 被害者の態度などのフォーカスして、間違いなどを見つけない。



**グレーゾーンの視点**

この図表の中で左へいこうはやめに「やめて」といおう

「これって支配かな？DVかな？」と考えるくせをもつこと。「自分は本当にこれを自分の自由な決定で行っているのか、他者（恋人、世間）の目を気にしてそれに合わせているのか、隠れた強制はないか」を振り返る視点。

「今はDVとまでは呼べないけど、これがすすむとDVになるかもな？」と考えるような視点

合わせていると、知らぬ間にデートDVっぽくなっていた

- 私は、人の必要を見ても面倒なことをしているとか、そういった感情しか出てこなくなり、自らが恋愛したい、しよう、という発想にはならないタイプだった。
- しかし、大学に入ってから、友人や先輩・後輩たちがみんな、彼氏、または、彼女がほしいと尋ねることに言っのを聞いて驚いた。
- そして、あまりにも皆がそうなので、だんだんと自分はおかしいのではないかと、羨望のあまり、と驚くようになり、真実と交感をしたことがある。
- それは一般的には「普通」な交際だったらしいが、私にとってはつらいものであった。好意や愛があまりない相手であったからなのかもしれないが、相手を第一に優先して物事を考える、ということは私にとって善値でしかなかった。
- その後、別れ一人に戻ったとき、気持ちが軽く、楽になった。その当時は、デートDVや、シングル単位論という考えは全く知らなかったため、私は恋愛に回っていないのだ、やはり周りとは違って少し羨望のた、と考えていた。
- 今デートDVのことを学んで、DVというほどではないが、付き合っていた時、言いたいことや思ったことは言えず、男は遠く二人で何かをするときは報告する、などの決め事があったので、それはお互いの成長に良くなかったと思うようになった。
- 初めての交際であったということもあり、付き合ったのなら基本は二人でなければならぬ、連絡を取らなければならない、と思いつまみずいてたのだろう、と今は冷静に落ち着いて考えることができる。

**おわりに 見抜き方**

基本に立ち戻る

自由、安全、自信、成長を減らされていないかどうかで、関係を見直す

グレーゾーンのどのあたりになっているか、考える

**まとめ デートDV予防教育**

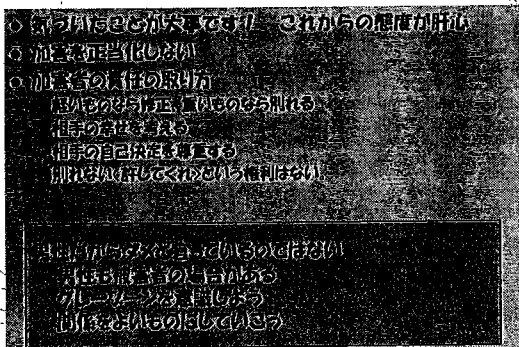
- 恋愛はしなくてもいい、焦らない
- いい恋愛が出来たらいいね
- 学べば大丈夫！
- 多くは楽しくて、学びが多くて元気が出る恋愛にできるし、なっている
- 優しい人は多い。ひどくない人は多い
- もし生い立ちなどから「今、ひどいこと」を知らぬ間にしていたら、変えていこう。今ならまだ間に合う

**結婚（恋愛）するにしても  
しないにしても大事なこと**

恋愛していてもしていなくても、恋愛に依存せず、自分がどう生きるのかという、その人の自立（生き方）の問題に立ち向かうことが重要だといえる。

従来のジェンダーとカップル単位発想にもとづく「狭い愛＝DV的な関係」に代わる、自立の上での新しい愛のあり方とは何なのか、NO1だけを大事にするようなものではなく、広い社会の中で、豊かに多くの人とつながる事が大事なのではないのか、個人単位のWLBというようなことに話が広がっていく。

**自分が加害者かなと思ったら**



**Q & A** つきあいてで、相手はわからないといていたが、ど  
ういった点ではやめに気付いて行動すべきか詳しく知りたい

見抜き方  
共感性が欠如している。(相手の感情、特に苦しみがわからない)  
すぐに、キスやセックスをしようとする、すぐに付き合いおうとする。  
支配欲・独占欲・束縛欲が強く、病的なほど嫉妬深い、すぐに連絡し  
てくる。何度もメールや電話。いつも一緒にいようとする。

ジェンダー（性別役割）強い。男を立てる従順な女がよいと思ってお  
り、そのようになるようにしほしほ説教する。

自己中心的で相手の話をきかず、自分の話したいことだけ話す。命令  
的。

冷静なときと、キレるときの二重の人格をもっている。激怒したり、  
優しくなったり、謝ったり、コロコロ変わる。怒った時、相手の女  
性を威嚇する。

自分の行動を他人のせいにする。よく約束を破る。ウソがうまい

◆一度でも身体暴力があったら → すぐに逃げる。別れる。すぐ相  
談。何かあろうと絶対に今度はしたら終わり、と伝える。

**自分がよかれと思ってした何気ない行為を、相手がDVだと感じるこことであるのでしょうか？**

あります。ですから相手の反応をよく見て、嫌そうだったら話し合ってください。DVと思うかどうか話し合ってください。あなたの思いとおりに相手に相手をコントロールしていませんか？ 相手はあなたと違う意見を自由に安全に言っていますか？ あなたの顔をうかがっていませんか？

そういう視点をちゃんとをもって、話し合い続けてください。そのように、関係を対等なものに変えようと努力する態度が、勢がある限り、DVにはならないとおもいます。

軽い行為で、次回から気をつければよいような程度ならDVとまではいえないとおもいます。

なお、「よかれと思ってやってあげる」というのは、往々にして支配的です。相手は自立した一人の人間です。絶対に「してあげる」というカッパル単位的な感覚をやめ、相手の自己決定を尊重するようにしていきましょう。

**友人がデートDV？**

- 友人がデートDVのように思えたら
- 相談されたら
  - 聴く → 情報
  - 一緒に改善方針考える
  - 次を考える

©aware 51

**友だちへのサポート**

～もしあなたの友だちがデートDVをされていたら～

- ・「あなたの責任ではない」と何度も伝えましょう。
- ・「あなたがそんな目にあっていいはずがない」と言しましょう。
- ・相談されたあなたが解決しなければと思わないようにしましょう。
- ・友だちが自分で決められるように支えましょう。
- ・保護者や先生や専門家など信頼できる大人に話せるよう支えましょう。

DV被害にあってしまったとき、どうい解決が得られるか。別れでも会うかもしれない恐怖はどうしたらいいのかが自分が退学したりするのは悔しい。①

同じ学校だとか近いところの人の場合、別れた後が心配ということですね。確かにこれは大きな問題です。ですから一人で対処せず、まず、信頼できる友人に協力してもらい、DVに詳しい人（先生や女性センターの相談員）につながってください。そして安全な別れ方、別れた後の安全の確保の仕方の作戦を立ててください。基本的には、先生や大人、親、弁護士や相談員などを巻き込み、そういう大人（支援者）を同席させて別れ話をしてください。

そしてそういう支援者がついてるから、もしストーリーカ一的なことをしたらすぐに警察に通報すると相手に伝えてください。並行して、事前に警察に、事情を話し、相手に来るのが怖いので、もし連絡したらすぐに駆けつけることを頼んでおくのがいいと思います。

### 被害にあった時、どうしたらいいか②

それでも少しでも何かされたらすぐに大人の支援者に同行してもらったうえで、警察に伝えて、相手に『もう近付くな』という注意を警察からしてもらいましょう。

それでも止まらないなら逮捕してもらうように被害を訴えることができます。主にストーカー法、器物損壊、傷害罪などが使えるので、警察や弁護士に相談してください。

多くの場合、専門家や警察などが自分にはついていてと思わせることで、加害者は諦めます。

対処の途中で相手の家族や職場・学校の人にも話をして、相手の暴発を抑えてもらうようにすることも選択肢の一つです。

危険性を見極めながらも、諦めずに頑張って自分の自由や安全をとりもどしてくださいね。

### 単純な結論的メッセージ

- 相手の欲求と自分の欲求を区別しろ
- 恋人は自分の思い通りになるものと思ふな。「●●してくれないなら死ぬ」、というな。
- 恋人間でも隠し事はあってもよい
- コンドームを使わないセックスはするな。セックスしたくないときはNOでよい
- 殴らなければ暴力じゃない、というのは間違い
- 嫉妬によって相手を怒ってはだめ。相手の行動を制限する権利はない
- 恋人がいろいろな友人とかかわるのを、じゃましてはいけない

### 未来を奪われないで 辻由起子 (37) さんの体験から

地元でトップの進学校にいった高校3年の終わりに、辻さんは、バイト先で知り合った1歳年上の男性と恋に落ちます。「お前は俺の嫁になる運命の女や」と言われ、そう思い込んで、すぐに一緒に暮らし始めてしまいます。

そこから優等生だった彼女の人生は大きくゆがんでいきます。大学に合格していたのに、大学入学前にすぐに結婚し、すぐに夫がコンビニ系とわかります。そして夫は殺傷沙汰事件を起こし、夫は多重人格的な精神障害も持つようになり、騒動し、妻に虐待、DVもおこないます。妻は大学にいけなくなり、長女を出産し、ホステス、喫茶店店員、スーパー、工場軽作業などで働くようになります。

別れることができたのは、23歳でした。彼女はその後、娘をかわいいと思えず、虐待してしまいます。娘が飛んで、母と娘で確執の日々があり、自殺未遂などもするという苦しい人生の連続でした。(『朝日新聞』(2011年1月5日)の特集記事より)

### 元気でね・おしまい 聴いてくれてありがとう

- 自分で勉強するなら  
遠藤智子『デートDV』KKベストセラーズ
- 参考  
伊田広行『デートDVと恋愛』双葉社 2010年  
『ストップ デートDV』解放出版社  
高橋裕子『デートDVと学校』エイデル研究所 2010年